

木は1年に1回実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。
【3～5年で資金3倍化を目指して】

(ご案内) レポートの名称が長期投資から資産形成に変わりました。内容の変更はございません

■■ 3/3(火)臨時レポートの当面の底打ち予測的中 ■■

<臨時レポートの予測ポイント>

3/3(火)の臨時号では、日経平均の7000円前後を第2の待ち伏せゾーンまでできましたが、ここから7000円を切る場面があっても弱気になる必要はないとし、安いところがあれば下がったところは積極的に買ってよいとしました。それは、NYダウの当面の動きの分析から、近々当面の底打ちの可能性があり、そのタイミングを3/2(月)の週(場合によっては3/9(月)の週にズレ込むこともある)としました。その場合、NYダウはどこまで下げるのかの見方として、NYダウは早い段階で昨年の安値7449ドルを切っているのにかかわらず、ナスダックをみると昨年の最安値11/21の1295Pを切っておらず、かなり下げ余地があるとしました。ふつうは主要指数は同じような動きをしてくるので、時間が多少ずれても昨年の11/21の1295Pを試す動きになり、その時はNYダウは7000ドルを大きく割れてくるとしていました。そしてNYダウが当面の底打ちとなれば日経平均も連動して底打ちとなる可能性が高いのですが、日経平均の下値は政府が月末の日経平均の指数を7800円水準に維持したいところなので、PKOが下値を買い支えて、たとえNYダウが7000ドルを大きく割っても日経平均は7000円を少し切るぐらいで止まるとしました。結果的にはその通りの動きとなりました。

<底打ちから本日までの動き>

上述したように、アメリカ株式は、この週(3/2～3/6)に当面の底打ちの可能性があるとし、それに連動して日経平均も底打ちの動きになる可能性が高いとしました。結局NYダウは3/6(金)に2月の雇用統計の悪化もあって6469ドルと一時6500ドルを割り込み終値は△32ドルの6626ドルとなりました。(この3/2(月)の時点での分析で、NYダウが7000ドルを割るかどうかについては、ナスダックが昨年の最安値11/21の1295Pを切っていないので、これを切る動きがふつうはできて、その場合は7000ドルを大きく割れてくるとしました。) 週明けの3/9(月)に▲79ドルの6547ドルと終値ベースで6500ドルに接近したあと、翌日はシティーグループの今年の1-2月の黒字発表をきっかけに金融株が急騰し全面高となってNYダウは△379ドルの6926ドルとなりました。その後も堅調に上昇し、週末の3/13(金)は△53ドルの7223ドルと4日続伸で引けました。当面の底打ちは3/6(金)の6469ドルとなりました。ナスダックは3/9(月)に1265Pをつけて終値▲25Pの1268Pとなって2002年10月以来の安値となって当面の底打ちとなりました。柴田野線ではNYダウは3/10(火)の6926ドルで買転換、同じくナスダックもこの日に1358Pで買転換出現となりました。

日経平均は、3/6(金)と 3/9(月)のアメリカ株式の安値更新を受けて、軟調な動きとなるものの 7000 円を意識した動きが続き 3/9(月)は 7028 円まであって終値は▲87 円の 7086 円、3/10(火)は 7021 円まであって▲31 円の 7054 円となりました。そして、この日の引け後にアメリカ株式が急反発となったことで日経平均も連動し、3/11(水)に△321 円の 7376 円となり、翌日(3/12)は S Q の前日で思惑もあり、又、ドルが 98 円台から 96 円台へ急落したこともあって▲177 の 7198 円と反落、トピックスは一時 700 P を割り、終値が▲21 P の 700 P となって、バブル後最安値を更新しました。しかし、翌日は再びアメリカ株式の大幅上昇を受けて△371 円の 7569 円と 25 日移動平均線(3/12 の終値 7503 円)を上をぬけて、先週の終値となりました。今週になっても NY ダウが戻りを試す展開になっていることから、昨日まで 4 日連続の上昇となって一時 8000 円台を回復し、本日は一服して▲26 円の 7945 円となりました。

■■■ 3 月末に向けての日経平均の動きと投資スタンス ■■■

まだ月末までは、日数を残しているため早い上昇のあと何らかのキッカケで急落すると月末に 7800 円水準を維持できなくなる可能性がでてくるので、ここからの動きは要注意となってきます。アメリカ株式の戻りが弱くなりそうであれば早目にもっと上昇させて(8200 円台ぐらい)下げた場合でも 7800 円水準で持ちこたえられるようにするか、それともいったん何日かでも下落させて再度月末に向かって 8000 円を目指す動きをするかということになります。昨日は 75 日移動平均線(8050 円水準)に到達して上昇幅を縮めました。本日も寄り付き直後に 8034 円まであって下落し▲26 円の 7945 円となりました。予想よりも早く日経平均が 8000 円に到達した背景は、次のように考えるとよいでしょう。つまり、先週末の G 2 0 財務相・中央銀行総裁会議で景気刺激対策として金融システムを強化することを合意したことを好感し、又、為替が 98 円台の円安水準にあること、さらに下値では年金資金が買い支えていることから、買い安心感が生まれ先物の買い戻し中心に大きく上昇することになりました。出来高、売買代金を伴っていないため、新規の資金流入はなく買い戻しが中心であることを示しています。ということはキッカケ次第では大きく下げを意味します。

以上から、今月末までには 3 つのパターンが考えられます。1 つは高値水準(7700 円～8000 円)でもみあって、月末を迎えるパターン、2 つ目は、押し目を入れたあと、8000 円を突破して目先の上値抵抗ラインの 8200 円水準にもっていき、NY ダウが下げても月末の 7800 円水準は維持できるようにすることです。どちらにしろ、7800 円以上で終わるパターンです。この 7800 円水準以上で月末を迎える可能性は高いと思いますが、相場には絶対がないので 3 つ目のパターンも念頭に入れておくべきでしょう。

現在の日本市場は、自律では上昇を続けることができないため、NY ダウ次第の動きになっているといえますが、ここにきてアメリカ株式の動きを左右する問題がでてきました。G 2 0 の会議の閉幕後、米財務省高官が記者団に対して 2 月上旬に発表した民間共同ファンドによる不良資産買い取り(バッドバンク構想)の詳細を今週内に公表すると語りました。総額で 70 兆円以上の資金を新たに準備する必要があり、公表されてもすぐに共和党から拒否反応がでてくると思われますので、来週以降法案の成立かどうなるかが焦点となります。否決されれば金融危機が再燃し株価が再び急落してくる可能性もあります。今回否決される可能性が高いと思われるのは(3/17)にアメリカ

のニュース番組でオバマ大統領が怒って AIG を批判しているのが放送されていました。それは、AIG は過去 4 回に渡って 1500 億ドル(14 兆 7000 億円)の政府資金を倒産回避のため受け取っているが、幹部 400 人が 160 億円近いボーナスを受け取っていることが判明したからです。アメリカではトップニュースで扱われています。この金融機関を助けるという「バッドバンク構想」も簡単には議会にも国民にも受け入れ難いのではないかと思います。受け入れるキッカケはアメリカ株式が暴落して、大変なことになるという状況になった時かもしれません。

<投資スタンスを考える>

3つのパターンを想定しましたが、大局下降トレンドの中での戻りであり、戻りが終われば、再び前の安値を試しにきます。日経平均ですと 7000 円～8000 円(最大で 8200 円)のレンジでの動きとすると、現在上限近くを試しているところですから、これが終わると再び 7000 円水準へ向かう動きとなります。NYダウは最安値を更新していますので戻りのあとはそこを試しにきます。その場合、最安値を切っていくのか、それともダブル底のような形(又は2番底)になるのかは、政府の政策次第となります。日経平均は今年の最安値 10/28 の 6994 円を切らずに、反発しましたがこれは PKO によってサポートされたという特殊な事情があります(トピックスは最安値を更新しました。)無理して PKO などによって相場をゆがめると、あとあとツケがまわってきますので、次の下げで 6994 円を切るとかなりの大きな下げとなる可能性があります。そのような今後の相場の見方をすれば月末にかけて保有株の上昇したものはいったん手仕舞うということになります。長く投資をやっているほとんどの方は、塩漬け株のオンパレードという状態の方もいらっしゃると思いますが、買った価格は考えずに、上昇している銘柄はいったんキャッシュ化することが塩漬け株の消去法です。キャッシュ化すればこれからは安くなる銘柄はでてきますので、乗り換えるチャンスです。このレポートの銘柄も買いポイント①②③より安くなったものもありますが、低位株の長期投資法は、ひたすら安い場面を待って少しずつ買い、さらに安くなって買うということを徹底しなくてはなりません。目先の上下動を気にせず、3年後の視点から現在をながめればよいのです。ただし、低位株で10%以上上昇したものは利食って別の安い銘柄に乗り換えるか、再び安くなるのを待って買うということもかまいませんが、そうすると短期投資家の心理になってしまいますので、割り切ることが必要かもしれません。全体相場が底を打っていない以上、買う場合はさらに安値があることを前提にしなければなりません。買う場合は低位株であっても日経平均が大きく下げるのを待ち、そのたびに安くなったのを買うことの繰り返しとなります。

コード 銘柄	市場	P B R	配当	3/19 の終値	買いゾーン	テーマ
1893 五洋建設	東1	0.59	1.75%	113 円	100 円前後 90 円前後 80 円前後	原子力関連 公共投資関連
6440 J U K I	東1	0.24	7.46%	69 円	55～60 円前後 50 円前後 40 円前後	中国関連
8411 みずほ	東1	0.85	4.78%	209 円	160 円前後 140 円前後	現水準は目先の天井圏。 金融再生

柴田野線「諺」一〇八話集

野線継承者 柴田 豊秋(柴田秋豊氏の長男)

～ 柴田野線「諺」108話集への思い ～

想い起こせば十九才より父に弟子入りし野線に携わってから私も七十七喜寿を迎える年齢となり人生も残り少なく頭の回転が衰えない記憶がある内にといい老骨に鞭打ち打ち最後のご奉公と筆を取りました。古来文人が掛軸にかかっている達筆でもなく誰でも読める自筆で執筆いたしました。

親子二代、八十数年を過ぎ父秋豊研究奥儀の数々を基礎に研究改良をし史料を発表しなければ親子二代後世に悔いを残す、あらゆる奥儀を発表する時期だと思いい立ち著述に至りました。

私達軍国主義時代に育った年齢は悲しいかな子供、孫達も簡単に打てるパソコン、英語が大の苦手、原稿も自筆で文章も次々と浮かぶ苦勞の連続であり今日迄書き留めた連載、父秋豊から教えを受けた事、私が長い相場界で気づき疑問に思った事を「諺」として著述にからめ今後野線投資に携わる人達の迷った時の一助になれば幸いと思っています。

古来の文人が掛軸にかかっているのは達筆で我々凡人には仲々読むことが出来ません、父からは文字は下手でも良い誰でも読める字を書く事と云われていたが、素人の事、文法上の誤り文面で重複することもありますが一話一話に意味が違いますので支障はありません。確かに父が研究し編み出した野線観測、棒足順張り、逆張り、鉤足を発表して北海道から日本橋に移り住み野線の復興に取り組んだが北海道の野線屋一と揶揄され軽視されました。今日では野線は「チャート」と呼ばれているが私は野線と云う単語に愛着があり今後も野線という文章一本で表現したいと思っています。

当時を振り返ると悔しく、辛い時期もあったが父の供をして一世を風靡した「赤いダイヤ」のモデルといわれた佐藤和三郎氏、売の山種と語り草となった山崎種次郎氏、立花証券の創設者独眼流のペンネームで執筆石井久氏、数々の相場師に会いお話をさせて戴いた事は相場観測の違いこそあれ、当時若かった私の人生の宝と思っており感謝しております。普通なら後身に譲り隠居する歳ですが、父を初め諸先輩に追い付き追い越せの気持ちで筆を持ち書きつづけ死が来る迄、研究、野線追及してゆきたい。

何如に奥儀を会得理解していても資金面様々の事情から大勢、中勢、目先、日計り売買に自ずと比の場面で果たして途転か利喰いか若しくは手仕舞いかの決断に迷いが生じたときの助となればとの思いから野線観測から見た一〇八話を今日迄の成功、失敗から感じた体験を「諺」として纏め投資の一助となればとの思いです。古来「諺」は古典古人の先駆者、先祖、先人から言い伝えられた人類の智慧の結晶だと思っている。日常何気なく使われている諺は誠に意味深い。

あらゆる科学が発達した現在と違い、天候の雨、雪の量、寒さ暑さから作物の種蒔き収穫時、日常の生活に密着し、「諺」として残り実際に何気なく伝えられ使われている。

私も含め何如に奥儀を吸収、理解していても必ずや出動に欲が付きまとい迷いが生じる事もある。比の「諺」は投資の心得として読んで戴きたい。柴田野線「諺」一〇八話集は相場投資、人生の奥儀とも思いい信じている。投機、投資者は元より、相場に関係ない経営者、個人の皆様にも一読して戴き、人生の一翼となれば幸と思っています。

豊秋

※このページは初めての方のために毎回記載します
柴田秋豊氏に興味がある方は自伝を漫画化したものがあります。ズバ株 HP のトップページにごぞ
います

<http://www.zubakabu80.com/>

第七話 投資はまず研究し確信を得てから

近年ネットの普及により株式、商品相場の投資家が激増し我々としては嬉しい反面、利益の追求が先走り「取らぬ狸の皮算用」とならないよう一応考えるべき。宝くじは運、ツキ、偶然であるが、相場投資は売りと買いの二通り、安易な気持ちでの投資なら一考すべき。投資は連続四～五回なら当ることもあるが儲かれば儲かるほど欲が絡む。投資の真理であり次第と何時の間にか建玉が増し、一瞬にして元金は元より借金が残り破産した事例を何人も見聞きしている、これが相場投資なのです。いかなる投資であれ、研究確信、納得を得てから出動しても遅くはない。自己責任時代である事を忘れてはならない、誰も恨む事はできない。

第八話 キャッチフレーズに惑わされるな

投資家は、指導する立場の諸先生の儲かりますだけのセミナー、著書等の宣伝文句だけではなく、何を根拠として指導しているかを聞き読み見定め確かめる事が必要である。指導する立場は確信を持って指導すべきで信用にも繋がることを肝に銘じるべきである。先般起訴され逮捕となったライブドアの堀江氏も一時期某テレビに出演し持て囃され「上がったたり下がったりして面白いでしょう」と発言していたが言語道断、株主や投資家を愚弄した発言であり奢りであり、思い上がりも甚だしい。経営者失格、他の一生懸命に頑張っている投資家、会社経営を甘く見ており一年足らずで破綻、投資家に損害を与え甚だ遺憾に思っている。

第九話 なぜ罫線「チャート」観測なのか

罫線研究に生涯を捧げた父を子供の頃より見て育った私が生きているうちに別冊で秋豊波瀾の一生を写真挿入で書き残しておきたいの一念で書いた。「罫線研究生涯棒柴田秋豊の一生」執筆完成近し。

私は世界投機、投資家の金銭欲には限りがないと思っている。父も百姓時代「米穀」の精算相場に手を染めたのが幸か不幸か父の人生を変え罫線研究に没頭させたのではないか。相場は才能、勘、情報、見通しがあれば簡単に労せずして儲けられると自信過剰となり、汗水垂らして働く人が馬鹿に見えたとき当時の事を私に話し戒めていたが、その父が一瞬にして破産の憂き目に会い、始めて人の勘、経験では永久に当り続ける事は有り得ぬと悟り、ありとあらゆる相場研究家、大手投資家と会い助言を聞き、執念で最後に辿り着いたのが罫線学であったと再三聞き、何事もまず研究教え諭された。

NYダウ



3/3(火)の臨時号の想定通り、この週の3/6(金)に6469ドルの昨年来最安値をつけて、急反発となりました。金融不安や企業業績への懸念が後退し、又、経済指標も想定を上回っていることで戻りを大きくし、昨日はFRBが米長期国債を買い取る声明から一時7571ドルと目先の上値抵抗ラインを一時突破し、終値は△90ドルの7486ドルとなりました。目先は上値が重たいところですが、今週末発表予定の「バッドバンク構想」の内容が好感されれば7800ドルを目指し、逆に失望となれば大きく売られることとなります。戻りを試し終われば多少時間を要するかもしれませんが、再び3/6の6469ドルを試す動きが想定されます。

日経平均



今週は、先週末のG20での金融システム強化で合意したことや、アメリカ株高、為替の98円台の円安から1ヶ月ぶりに7700円台のせの△134円の7704円となりました。その後もアメリカ株式の堅調さを背景に戻りを試す動きとなり、3/18(水)は2/10以来の8000円台を一時回復しました。しかし、8050円水準は75日移動平均線や柴田罫線での抵抗ラインでもあり、ここでハネ返されて上げ幅を縮小し△23円の7971円でした。本日も寄り付き直後に8035円までありましたが下落に転じ大引けは▲26円の7945円となりました。このままNYダウが反落すればもう少し日経平均も下落するところですが、その押しはNYダウに大きな下落がなければ押し目買いとなって月末に向けて株価を高くする動きとなります。